

## 『命の山王』

No. 27 [2018年11月14日(水)]

### 伝える気持ちと伝え方

私の古くからの知り合いに、ABSでアナウンサーをしている方がいます。賀内隆弘さんです。テレビでもラジオでもよく出ていますので、知っている人も多いと思います。賀内さんは、私が中学の吹奏楽部の時の後輩なので、呼び捨てにしてもかまわないのかもしれませんが、何十年もお世話になりっぱなしなので「賀内さん」と呼んでいます。その賀内さんから、以前興味深い話を聞かせてもらったので紹介します。

彼は、もうベテランなのでアナウンス部の部長を務めています。当然のことですが、よく若手の指導もされるそうです。その指導をしている時に、こんなことを話していました。「若い人は一生懸命原稿を読もうとするのだけれど、それだとなかなか人には伝わらないのですよね。原稿を読む時に、例えば天気だとすれば、その地方の暖かさや寒さなどを想像して話すことが大切なのです。何かの災害を伝える場合も同じで、ただ原稿を読むのではなく、その被害の大きさや大変さを思い描きながら読むことで、初めて人に伝わるアナウンスになるのです。」ただ原稿を読んでいるのでは、なかなか人には伝わらないのだそうです。

もう一つ教えてもらったのは、誰にとってもすごく役立つものでした。それは、いわゆる「かまないコツ」というものでした。かなり話すことが得意な人でも、話しにくい言葉や間違いやすい言葉があるものです。(私も合唱コンクールの発表で、「最優秀伴奏者賞」と話す時は、いつもかなり気をつけています。) そんな時はどうするのか、というと、「ほんのわずかだけ区切ってしゃべる」ということがコツなのだということでした。

例えば「台風による大雨で、各地で土砂災害が出ています。」という原稿だとすると「土砂災害」という言葉が誰にとっても言いにくいはずですが。その場合、土砂と災害の間にほんのわずかな間(0.1秒もないぐらい)を空けることで、いわゆる「かむ」ということは激減するそうです。一気に言おうとすると、どうしてもあわててしまい、次の言葉と重なったり、さらに言いにくくなってしまったりするようです。特に言いにくい言葉や大切な人の名前などを話す時は、ぜひ活用してみてください。かなり改善されるはずですが。

以上の2つのポイントは、日頃話す場面でも生かすことができますし、3年生は間近に迫った面接で上手に話すためにも、大切なことなのではないでしょうか。

〔生徒指導主事：木内記〕

### 合同避難訓練を行いました！

昨日の避難訓練は、わかば幼稚園の園児(約100人)も一緒に行いました。最初グラウンドへ避難した後、大津波警報が出たという想定で、全員が4階へ避難しました。園児たちを連れて行ったのは3年生でした。

私たちは、大きな災害に見舞われた時、自分の身の安全を確保した後、もしも近くに、高齢の方や怪我人、そして幼い子どもがいた場合、それらの人たちを守る側になるはずですが。昨日は、それを実感することのできた避難訓練になったと思います。

### 各学年の取組

明日は、1年生が地域職場訪問、2年生が平和教育講話会、3年生が性教育講座を行います。

1年生は今までの計画や準備を生かしてほしいですし、2年生は修学旅行の成功へとつなげてほしいです。また、3年生は正しい知識を理解してもらうことが目的です。各学年とも貴重な時間を過ごすことになると思います。